

■水防災意識社会の再構築について

- 平成27年9月関東・東北豪雨では、記録的な大雨により、**鬼怒川の堤防が決壊**し大規模な浸水被害が発生。
- この災害を踏まえ、“**施設では守りきれない大洪水は必ず発生する**”との考えに立ち、平成27年12月に、社会全体で防災意識を高め災害に備える「**水防災意識社会再構築ビジョン**」を策定し全国で取組を推進中。
- 阿武隈川上流においても**、平成28年4月28日、**阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会**を設立。「住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう」に、平成28年9月に「**住民目線のソフト対策(逃がす・防ぐ・取り戻す取組み)**」等を「**取組方針**」として策定し、取組を推進中。

※阿武隈川上流の経緯
 H28.4.28：第1回協議会、H28.6.17：第1回幹事会、H28.7.11：第2回幹事会、H28.9.26：第2回協議会
 H29.4.27：第3回幹事会、H29.6.1：第3回協議会、H30.4.25：第4回幹事会、H30.5.30：第4回協議会

10市町村長による減災対策協議会の設置・開催

阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会

- ・阿武隈川において**今後5年間で取組むべき内容**と**役割分担**を議論するため、H28.4.28設置。
- ・阿武隈川の洪水特性や**ホットライン**、**タイムライン**、**リエゾン**等について**市町村長へ事前説明**。
- ・H28.9.26に策定した取組方針に基づき、実施した内容について継続的な**フォローアップ**を行うこととする。
 ⇒**迅速な住民避難**に備える（命を守る行動）



■阿武隈川上流の取組方針について

①阿武隈川上流で取組む「住民目線のソフト対策」



■各機関の取組事例について

浸水想定区域(想定最大)の公表

市町村長による避難勧告等の適切な発令や住民等の主体的な避難に役立つよう、想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域や家屋倒壊等氾濫想定区域を公表。

- ・平成27年の水防法改正を踏まえ、これまでの洪水浸水想定区域を見直し、公表。(県管理区間はH32目標)
- ・阿武隈川上流においても、右図の洪水浸水想定区域が示されている。
 ⇒**的確な住民避難**の指標(水平・垂直避難)



平成27年の水防法改正を踏まえ、これまでの洪水浸水想定区域を見直し、公表。(県管理区間はH32目標)

阿武隈川上流においても、右図の洪水浸水想定区域が示されている。

⇒**的確な住民避難**の指標(水平・垂直避難)

地域と一体となった堤防共同点検

緊急時の水防活動や避難勧告等の発令、住民が避難を迅速・的確に行う上で必要な重要水防箇所等を把握するための共同点検。(合同：住民/水防団/市町村/気象台/国)

- ・洪水時、堤防等の監視・巡視・水防活動・避難を行うにあたり特に注意する必要がある重要水防箇所等を点検。
 ⇒**確実な水防活動・住民避難**に備える。



緊急時の水防活動や避難勧告等の発令、住民が避難を迅速・的確に行う上で必要な重要水防箇所等を把握するための共同点検。(合同：住民/水防団/市町村/気象台/国)

洪水時、堤防等の監視・巡視・水防活動・避難を行うにあたり特に注意する必要がある重要水防箇所等を点検。

⇒**確実な水防活動・住民避難**に備える。

河川防災教育の取組強化

教育委員会と連携し、小学生等を対象とした河川防災教育の取組を強化。従来の「出前講座」の単発的な取組だけでなく、「学校授業」による定着・継続が重要。(構成機関：国/気象台/教育委員会/学校)

福島市の小学校において実施した試行授業

逃がす

共同作成した教材で試行授業

小学校の先生

教材作成の打合せの様子

- ・先生の教材作成を支援し、継続的な河川防災教育を推進。
- ⇒**平時の防災意識の向上**を図る。

②阿武隈川上流で取組む「ハード対策」

- 平成27年12月に発表した「水防災意識社会再構築ビジョンにおける今後概ね5年間で実施する主な河川整備」を踏まえ、「**洪水氾濫を未然に防ぐ対策**」や「**危機管理型ハード対策**」などを着実に進める。